

‘愛媛果試第48号’の適正葉果比の検討(2020年産)

これまでの調査において、‘愛媛果試第48号’の適正葉果比80と考えられている。試験事例が少ないことから、2020年産においても最終葉果比が果実品質と階級に及ぼす影響について検討した。

所内14号園(雨よけハウス)の‘愛媛果試第48号’(4年生、ウンシュウミカン中間台を供試した。2020年7月17日に葉果比60にあら摘果し、9月15日に最終葉果比80と100に仕上げ摘果した処理区を設けた。

表1 ‘愛媛果試第48号’の最終葉果比が収量、階級に及ぼす影響

処理区	着果数 (個/m ³)	収量 (kg/m ³)	階級比率(%)			
			M	L	2L	3L
葉果比80	17.6	3.9	14.4	58.7	26.7	0.3
葉果比100	16.9	4.0	8.7	50.0	38.5	2.8

2021年3月1日調査

※1 果頂部ネックの程度を達観評価(0無-3甚)

※2 発生指数=Σ(発生程度×程度別果数)/(調査課数×3)

葉果比80、100ともに2L~Lの階級は80%以上と高かった
葉果比80は、M階級の果実が約14%と高かった



表2 ‘愛媛果試第48号’の最終葉果比と果実品質

処理区	階級	1果重 (g)	糖度 (° Brix)	クエン酸含量 (g/100ml)	
				ab	0.99
葉果比80	M	183	14.4	ab	0.99
	L	228	13.8	bc	0.90
	2L	274	14.0	bc	0.94
葉果比100	3L	327	13.4	c	0.81
	M	183	14.3	a	0.95
	L	228	13.5	abc	0.89
葉果比100	2L	274	13.5	abc	0.87
	3L	327	13.3	c	0.86
有意性※		-	*	ns	

2021年3月1日調査

※Tukey 5 水準 異符号間において有意差あり

糖度は、全ての階級で13度以上であった
3L階級で低い傾向がみられた

2020年産では適正葉果比80と100の差は少なかった。引き続き調査する必要がある